

介護職の魅力伝える

健康

日本は高齢社会のトップランナーといわれます。中でも、福井県は全国平均より三年程度高齢化が進んでいます。二〇一三年十月の県内の高齢者数は約二十一人、高齢化率は26・9%と四人に一人が高齢者です。

高齢化が進むと、介護が必要な人も増えてきます。介護保険制度が始まった二〇〇〇年に約一万七千人だった県内の要介護認定者は、一三年には約三万八千人に倍増しています。こうした高齢者を支えるのが家族や地域の人々、介護の事業所で働く介護職員の人たちです。

一二年度の県調査では、県内の介護職員は約九千人。しかし、高齢者数がピークとなる二五年ごろには約二万二千人が必要になると予測され、介護人材の確保が重要な課題です。このため県では、介護サービスの事業者団体など関係機関と連携し、介護分野への新

い き い き コーポ



認知症のおばあちゃんを演じる劇団「たからぶね」のメンバー＝昨年11月10日、福井市のアオッサで

規就業と定着の促進を図る。さまざま取り組みをしていきます。

最近では、若い介護士を主人公にした漫画が人気で、主人公にした漫画が人気ですが、特に次代を担う若い人たちに介護の仕事に関心を持ってもらい、魅力ある職業として選択してもらえ

人材確保へ取り組み

規就業と定着の促進を図る。さまざま内容でしたが、わたった。ぜひ介護の仕事に就きたい」「大変だとは思いますが、それ以上にやりがいを感じる仕事だと分かった」など介護の魅力を感じ取ってもらえたようです。今後は高校生だけでなく、元気に活動されている高齢者や家族介護の経験のある主婦など、介護人材の裾野を広げることも重要になるでしょう。

さらに広く県民の皆さんに介護の仕事の重要性を解してもらい、イメージアップを図っていくことも必要です。このため、十一月十一日(いい日、いい日)の介護の日を中心に街頭キャンペーンなどの啓発活動をしていきますが、本年度はより多くの方々に参加して「介護まるかじり！フェス」を福井市のアオッサで開催しました。

要です。このため、十一月十一日(いい日、いい日)の介護の日を中心に街頭キャンペーンなどの啓発活動をしていきますが、本年度はより多くの方々に参加して「介護まるかじり！フェス」を福井市のアオッサで開催しました。

パネル展や寸劇で啓発

演や介護サービスのことを知ってもらうためのパネル展示、認知症の方を見守るサポーターの養成講座などさまざまな内容でしたが、中でも認知症高齢者への対処法を分かりやすく、楽しく伝えるボランティア団体「たからぶね」のユーモラスな寸劇が注目を集めました。

(県長寿福祉課)